

## ニュータウンにおける個性派住宅の研究 —ログハウスをケーススタディーとして—

正会員 ○ 中川 朋子\*  
同 岩佐 明彦\*\*

ログハウス 個性派住宅 テーマパーク化

### 1 研究の背景と目的

郊外の新興住宅地（本研究ではニュータウンと呼ぶ）では、住宅単体やその住宅地内で完結した何らかのテーマを持って造られた個性派住宅 fig.1 が多く見られる。これらの住宅は外観や玄関周りの空間がそれぞれのテーマを持った装飾アイテム fig.2 で飾り付けられたり、住宅単体のデザインが周囲から突出したり fig.3、居住者の家へのこだわりや思い入れが色濃く表出したものであるが、街並みや近隣との関係を十分に考慮されているとは考えにくい。本研究ではこうした個性派住宅の典型的な事例として、ニュータウンに建つログハウス（北欧、北米の伝統的な家屋を模した、丸太工法を用いた住宅）をケーススタディとして、居住の実態調査を行い、個性派住宅居住者の住宅や近隣に対する認識を明らかにすることを目的とする。

### 2 調査概要

調査は2004年9月から10月にかけて新潟市近郊34のニュータウンで目視調査を行った。その結果、新潟市内で確認できた全ログハウス7軒 fig.4、fig.5と、ログハウスを専門に取り扱う工務店1軒を対象として、同10月23日から11月1日にかけてアンケート調査及びヒアリング調査を実施した。

### 3 ログハウスを取り巻く状況

これまで避暑地などの山地を含め別荘地を中心に建築されてきたログハウスがニュータウン内に建造される背景として、平成10年の建築基準法38条の改定により22条区域内にも個別認定を受けずに建造が可能になったことが指摘できる。今回調査対象とした7件のうち6件も平成10年の法の改定以降に建てられたものであり、今後もニュータウン内におけるログハウスの増加が予想される。

### 4 ログハウスの選択の理由

ログハウスを選択する居住者のタイプとして、カントリースタイルへの憧れを持ち、ログハウスの建築を以前から検討していた例 fig.6 と、個性的な住宅希望しを探していた際にログハウスを気に入り、建築した例 fig.7 の2種類が見られた。近年になり、多くの種類の本や雑誌の出版されインターネットのホームページの充実が見られるようになり、いずれもそれらから情報を得て、ほとんどの施工を工務店に依頼している。ログハウスは比較的構造が簡単であるために、セルフビルドが可能な点



fig.1 ニュータウン内に建ち並ぶ個性派住宅

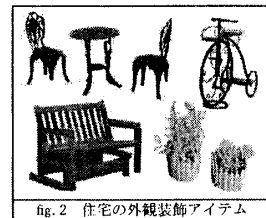


fig.2 住宅の外観装飾アイテム



fig.3 テーマを持ってつくられている住宅

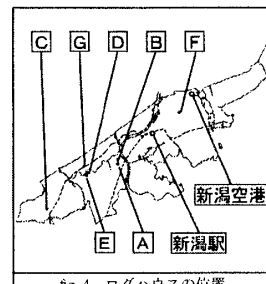


fig.4 ログハウスの位置



fig.5 新潟市内のログハウス全7軒

ログハウス ケースE H那さんの話 <平成16年築 4人家族>  
ももとは新潟の生まれですが、ずっと東京にいて山舎暮らしをしたいと思いますって、新潟に家を建てて引っ越したんですよ。カントリーが好きだったのでログハウスも含めいろいろと探したけれど、やはりログハウスしかないと思って、妻と一緒に本やインターネットを見ながらいろいろ考えました。  
日曜大工するのが夢で、実際に薪を入れる小屋を作ったり、庭をいじったりして楽しんでるんですよ。家具は以前の家で使っていたものがほとんど木製だったので今もそのまま使っていますが、ダイニングテーブルはいろいろと探して買いました。ポストもすごく気に入っていてこれしかないと思って買ったんですよ。ログハウスに住んでいると子供にも木の玩具を買いたくなるし、もうログハウス以外には住めませんね。

fig.6-1 ログハウスの建築を以前から考えていた例1

ログハウス ケースG お婆さんの話 <平成10年築 4人家族>  
山へ出かけるのが好きで週末になるといつも出かけていてね。その時見た山小屋みたいな家に住みたいって思っていて、娘夫婦がログハウスを気に入ってずっと建てたいと思っていたんだよ。モデルハウスに行って見てきたりして、孫が喜ぶように娘夫婦と話し合ったり私の希望で和室を入れてもらったりしながら決めてねえ。作業は全部工務店の人に任せて、テーブルと柵もお願いして作ってもらって。山で拾ってきたきのこやまつぼっくりや写真を色んなところに飾っているんだよ。花壇や庭や駐車場もみんなで作って、ペンキ塗りや庭でのバーベキューは家族の恒例行事で楽しんでやっていますね。冬場はすごく暖かいし、孫も喜んでくれているしやっぱり木の家はいいね。

fig.6-2 ログハウスの建築を以前から考えていた例2

も大きな特徴であるが、今回の調査対象にはセルフビルドのものはなかった。特に別荘地において、居住者が趣味や娯楽のひとつとして建造に参加することは少なくないが、ニュータウンにおいては一概にそうは言えず、居住者は自立建造などの家をつくるプロセスよりも、デザイン自体への憧れや流行りでログハウスを選択していると考えられる。

5 ステレオタイプな生活像

ログハウスでは「カントリースタイル」という多くの人に共有されるイメージに基づき装飾がなされている。それは駐車場や庭、玄関周りの空間などの住居の外観 fig. 8-1 のみではなく、家具などの室内空間 fig. 8-2 にも装飾が施され、特にリビング・キッチンなど家族が集まる空間において顕著であり、『カントリースタイル=家族が集まり団欒している』というイメージが居住者の中に共通して定着していると予想される。また手製やこだわりのアイテムが多く、各住居で共通して見られることも特徴的である。居住者はログハウスでの生活スタイルを本や雑誌の影響を受けてステレオタイプ化したイメージに近づける傾向が強いと言える。

6 場所性の不一致

ログハウスとは本来北欧や北米の自然環境の厳しい土地の住居である。北欧や北米に限らずログハウスは山地に多く見られるが、住環境の利便性を求め、ニュータウン内に建造したことにより、居住者は「場所性の不一致」や「周囲の街並みとの不調和」という認識をもっているが「憧れの生活の実現」を「近隣住宅との調和」より重要視している fig. 9。

7 イメージとの相違

居住者はログハウスに対して憧れや理想の生活像を持ち多くの期待を寄せているが、イメージに近い生活を持續していくことは困難であり、居住者がアウトドア志向、自然志向など実際のログハウスの使用用途に近い趣味や生活観を持つことが必要と考えられる。

8 まとめ

ログハウスの居住者は個性派住宅への強い憧れやこだわりを持ってログハウスを選択し、生活スタイルそのものもログハウスのイメージ(カントリースタイル)に近づけようとしている。そこでの生活は周辺を顧みずログハウスというテーマで一貫しており、「日常生活のテーマパーク化」とも言うべき現象が指摘できる。このテーマパーク的な生活を日常生活として維持する為には居住者が強いモチベーションを持續させることが必要であり、居住者自身の生活観や人生観が無理なくこのテーマに沿っていること fig. 10 が必要であると考えられる。このテーマパーク的な生活が維持可能なのか、更に発展していくのか、今後も継続的に見ていきたい。

ログハウス ケースB 奥さんの話 <平成13年築 4人家族>  
 今まではアパートに住んでいて何回か引っ越していたので、「フローリングに白い壁」にはもう飽きてしまって…。個人的な家を探して住宅展示場を見て回っていて、一度はドーム型の家に決めたいんですけど、いろいろあってログハウスにしたんですよ。木の家だから健康的だし、癒されるし、夫に賛成してもらって建てたんです。前の家で使っていた家具は少なかつたから思い切って全部新しくしたんですよ。ログハウスを建てた当時は自分たちで駐車場にレンガを敷いたり、庭の木を電飾したりして色々頑張りましたね。他にも色々やりたかったけれど、最近はメンテナンスのペンキも塗ってなくて痛んでしまっているし、デッキ部分も物がいっぱいになってしまったから、花を置いて綺麗にしたいと思ってるんですけど、なかなか時間が取れなくて一人でできないものだから手が付けられないんですよ。

fig. 7 個性的な住宅を探していてログハウスを気に入って建築した例

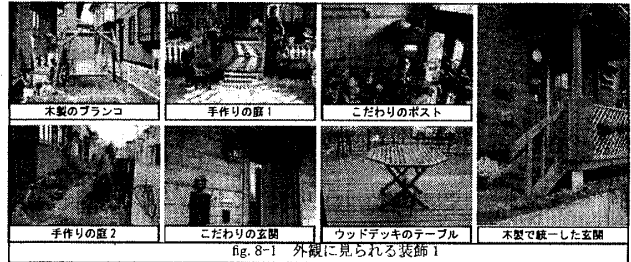


fig. 8-1 外観に見られる装飾1



fig. 8-2 室内に見られる装飾2

- ・ニュータウン全体としての景観を統一する計画があって、街のカラーの赤に合わせて一軒一軒の家にもみじの木を植えることになってはいたんですけど、ログハウスの雰囲気にならなかったの、抜いて親戚の人にあげてしまいました。(B)
- ・出来るのなら色々な人にもログハウスに対し興味もってほしいですね。(C, E)
- ・ログハウスに住むことが自分達の夢であったので、ご近所との調和などはあまり特に気にしていませんね。(C, D, F)
- ・近隣にも煙突のある家とが個性的な家があるたくさんあるので、ログハウスばかりが目立つとも思わないですよ。(E)
- ・周囲に比べれば目立っていると思いますけど (A)
- ・周りより目立つのでよく道案内のときに目印になりますね。うちに来る人も絶対に迷わないか。(D)
- ・ログハウスは本当は山のなかにあるんですけど、仕事とか生活のことを考えると街の中にあるほうが便利ですから、ここに建てることにしました。(E)
- ・建築当時は、近所の人にとってもめずらしがられたね。よく「喫茶店でもするの？」ってきかれましたよ。(G)

fig. 9 居住者の認識

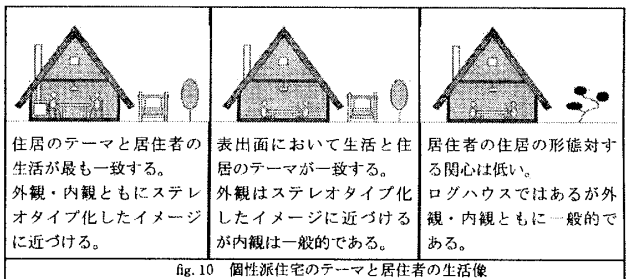


fig. 10 個性派住宅のテーマと居住者の生活像

\* 本研究は平成16年度学術研究費(若手B「郊外ニュータウンの成熟に関する研究」研究代表 岩佐明彦)による。

\*新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期過程  
 \*\*新潟大学工学部建設学科 助教授・博工(工学)

\*Graduate Student, Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.  
 \*\*Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Niigata Univ., Dr. Eng.